高志短歌俳句集

空木田

著者略歴

埼玉県 秩父町に生れる
早稲田大学第一政経学部政治学科卒業
現住所；〒351-0114　和光市本町31-8-407
TEL；(048) 464-1339

別冊類生文庫 1
高志短歌俳句集
平成十年九月十六日　発行
定価　千　円
著者　空木田（からきだ）　高志（たかし）
発行者　斎藤　誠
発行所　生活広報センター
和光市本町31―16―807
TEL (048) 462－2000

© Takashi Karakida 1998

高志钧

江苏工业学院图书馆
藏书章

悱

集

目次

高志短歌集……5
高志俳句集……135
俳句について……345
季語「神の旅」について……359
あとがき……375

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

高志短歌集

信濃……11
千曲……25
単独行……31
北（一）……35
北（二）……43
東……49

西……53
南……57
諸詠……63
艶……85
老……89
故郷……93

富士忍野……101
浅草三社……107
加賀金沢……111
奈良……121
京都……129

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

信

濃

桜守（さくらもり）　静かに語る　夕月の
信濃の寺に　紅枝垂（べにしだ）れ散る

春楡（はるにれ）の　高き梢も　花つけり
信濃夜明（よあ）くる　山の辺（べ）の道

色付ける　リンゴを胸に　集（つど）いける
乙女ら今宵　ハチロー忌かな

一の瀬の　白樺林　残雪の
乗鞍遠く　李（すもも）花咲く

犀川の　流れを止めし　大池に
雪山映えて　白鳥ら遊ぶ

薄紅の　雪に輝く　常念岳を
見つつ明け行く　松本の朝

花びらの　松本城の　夕焼けに
雁帰り行き　影薄れ行く

茸干す　奈良井の宿の　町外れ
お六櫛など　売る店のあり

柿の実の　たわわにみのり　色付ける
木曽谷の秋　初霜の朝

「農園のスターキング」を　描きしは
我が友の亡父（ちち）　その友も老ゆ

町並を　水の流れて　桜咲く
海野の宿の　遅き春かな

北国の　街道筋に　佇（たたず）める
海野の里は　宿場町なり

信濃なる　杏(あんず)の里を　訪ねしも
杏花散り　空のみ青し

孫負いし　杏の里の　里人は
昨夜の風に　花失(う)せんと言う

唐松は　僅(はつ)かに芽吹き　夕焼くる
八(や)ケ岳(つ)の麓を　おおい尽くせり

風花の　静かに舞える　旅の宿
木曽谷更けて　雪の降り積む

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com